

(四) サラサドウダンの群落

町文化財 平成元年四月指定

西天城を含めた天城の山々には、ツツジ科のドウダンツツジの仲間としてサラサドウダン、チチブドウダン、ドウダンツツジの三種類が自生しています。このうちドウダンツツジは庭木や生け垣として植えられていますので、よく見ることが出来ます。

しかし、サラサドウダンやチチブドウダンは、山の尾根すじや山頂近くの中腹に行かないと見ることはできません。サラサドウダンは、高さ四〇六メートルの落葉小高木で、五月ころには鐘形の花を多くつりさげます。この花は十ミリ程の大きさで白色または淡黄色で虹色のすじがあり、先端は淡紅色を帯びます。

このサラサドウダンのめずらしい大きな木が、万二郎岳ばんじろうだけの南側の山の中腹（一部国有林内）に自生しており、平成元年（一九

八九年）に町の天然記念物に指定されました。

一番大きな木は、根回り一六二センチメートル、目通り一メートル、樹高五メートル、枝張りも東西四四〇センチメートル、南北五六〇センチメートルもあり、それは見事なものです。その周りにも素晴らしいサラサドウダンが何本もあります。しかし、残念ですが、標高一一九〇メートル付近の急な山の斜面にあるので、簡単には行くことができません。

また、このサラサドウダンツツジの群落は、伊豆森林管理署も価値のある植物群落として平成三年（一九九二年）に「万二郎ドウダンツツジ植物群落保護林」に設定しています。

